（丙種之部）

落葉木（一等賞）

文一甲二　佐藤一雄

朝

しめらへる大地に群れて雀等のさやげる見つゝなごみ行くこころ

大方の葉は散りはてゝあらはなる庭のさくらに雀さやぐも

水前寺に友と來たりて月見るとのぼりし岡の草の露けさ

さ夜深くもだして聞くや電車の音はるかに聞こえやがて消えけり

部屋ぬちにもだせばいやに耳に入る秋の夜更けの弱き蚊の聲

一日種羊場を參觀す

大阿蘇のひろきすそ野の牧場にわれ見はるかす四方の山々

ひるの月ほのかにかゝる牧場にきこゆる羊の聲のひそけさ

雨の朝あけ

見はるかすをちの山々けむらひて今朝眞しづかに小雨降り居り

ほし物はぬれつゝあはれまなかひに降るとも見えぬ雨の降り居り

故郷より小包とゞく

故郷ゆ送りて來にし小包を開きつゝ覺ゆ胸のときめき

値よき品にあらねどかにかくに親のなさけのしるしこもれり

取りあげてほこるに足らぬ品なれど慈悲ふかき親われは持ち居り

過渡人の歌へる（二等賞）

甲一理二　甲斐政治

母にあるあざ

湯あがりのこゝろゆたかに爪をつむしまらくの間のおもふこ